

小栗栖排水機場損害賠償請求訴訟に係る訴訟の進捗状況について

平成25年9月に小栗栖排水機場周辺地域で発生した浸水被害に関しまして、本市は、被害を受けられた方に対し必要な賠償を行うとともに、浸水被害を発生させた原因者である排水機場の維持管理業務の委託事業者オグラロード・サービス株式会社（以下「オグラロード」という。）及び同社から営業譲渡を受けた事業者ジェイテック株式会社（以下「ジェイテック」という。）に対し、損害の賠償（本市が支払った賠償額等の求償）を求めて訴訟を行っており、その進捗状況について御報告いたします。

1 オグラロードに対する訴訟

(1) 訴訟の概要

本市が浸水被害の原因分析を行うために設置した「小栗栖排水機場周辺における浸水被害検証委員会」（以下「検証委員会」という。）から出された「小栗栖排水機場周辺における浸水被害検証報告書」（以下「検証報告書」という。）において、「浸水被害は、委託業者の人為的な操作ミスによるポンプの停止が原因である。」とされたことを踏まえ、本市は、オグラロードに対し、平成26年7月25日に市会の議決を得て、同年8月8日に、損害の賠償（本市が支払った賠償額等の求償）を求めて訴訟を提起しました。

訴訟においては、①人為的な操作ミスによるポンプの停止と浸水被害の因果関係（以下「因果関係」という。）及び②本市の損害額の妥当性が大きな争点となっています。

なお、本件訴訟には、オグラロードが加入していた総合賠償責任保険の引受保険会社である損害保険ジャパン株式会社（以下「損保ジャパン」という。）が参加しています。

(2) 進捗状況

これまで、因果関係に係る審理を先に重点的に行い、その後、損害額に係る審理を行うという裁判所の方針の下、審理が行われてきました。

審理には検証報告書における解析手法など、専門的、技術的な事項に対する知識が必要であることから、裁判所が、河川工学等に関する専門的知見を有する専門委員（学識経験者）を選任し、因果関係に係る審理が継続してきました。

専門委員からは、検証報告書における解析手法等について妥当とする意見が出され、因果関係に関する審理が進捗しており、今後は、もう一つの争点である、損害額の妥当性についての審理が本格化していくこととなります。

(3) 訴訟における拡張請求の申立てについて

訴訟の継続中に金額が確定し又は新たに生じた損害については、その分を請求額に追加すること（拡張請求）を前提に、市会の議決を頂いておりました。

平成28年7月にも、拡張請求の申立てについて御報告いたしましたが、追加で34,292,946円の損害額が確定したため、裁判所に請求額の拡張を申し立てます。

(参考) 請求の内訳及び金額

	提 訴 時 (平成26年8月8日)	現 在 (平成28年7月22日拡張)	今回の拡張の内容
(1) 被害者への賠償額	531 件	611 件	(※1) 618 件 (+7 件)
	418,280,163 円	726,344,672 円	738,627,682 円 (+12,283,010 円)
(2) 保険会社からの求償額	186 件	236 件	(※2) 248 件 (+12 件)
	201,208,402 円	240,321,414 円	262,331,350 円 (+22,009,936 円)
(3) 本市負担の経費			
ア 市営住宅等の修繕費	53,417,119 円	52,369,772 円	52,369,772 円
イ 派遣会社への人件費等	102,889,856 円	140,024,394 円	140,024,394 円
(4) オグラロードへの委託料債務の相殺額	△61,990,461 円	△61,990,461 円	△61,990,461 円
合計 (訴訟における請求額)	713,805,079 円	1,097,069,791 円	1,131,362,737 円 (+34,292,946 円)

※1 被害申告のあった全619件中、残りの1件については、平成30年3月22日に文書を送付し、本市が提示する金額での合意の意思確認と時効期限（3年）を通知。しかし、示談合意に至らず時効期限が到来した。

※2 保険会社から求償を受け示談締結に至った件数の総数

2 ジェイテックに対する訴訟

(1) 訴訟の概要

ジェイテックは、浸水被害発生後に設立され、代表取締役及び監査役をオグラロードの従業員であった者がそれぞれ務めるとともに、オグラロードから営業の全部譲渡を受け、オグラロードと同一の場所において事業を行っている会社です。

このため、本市は、平成29年3月24日に市会の議決を得て、同年5月23日に、ジェイテックとオグラロードは実質的に同一であるため、本来オグラロードが本市に支払うべき賠償金をジェイテックが支払うこと等を求めて訴訟を提起しました。

(2) 進捗状況

ジェイテックは、「オグラロードとは全くの別会社である。」と主張し、全面的に争う姿勢を見せています。

オグラロードに対する訴訟と並行して審理が進められる予定です。